




病虫害発生予察情報予報第12号


佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要

作物名	病虫害名	3月の予想発生量		病虫害防除のてびきの記載頁	予報対象の病虫害 (抜粋)	
		平年比	前年比			
果樹	かんきつ	かいよう病	やや多	多	220~222	 かんきつかいよう病
	かんきつ	ミカンハダニ	やや多	多	239~242	
		特記事項 1. かいよう病 前年発生した罹病葉・罹病枝は伝染源となるので必ず除去する。ただし、強剪定は枝が遅くまで伸長し、本病にかかりやすい期間が長くなるので行わない。 また、前年に発生した園や、風当たりが強い園、罹病性品種（ネーブル、はるみ等）が植栽された園、新梢の伸長が遅くまで続く園（幼木園、高接園、隔年交互結実栽培園等）では、発芽前の3月上旬に必ず銅剤を散布する。 2. 樹勢低下樹へのマシン油乳剤の散布 1月下旬の低温遭遇により、落葉が発生しやすい条件にある。そのため、樹勢が低下している樹については、マシン油乳剤の散布を控え、生育期の殺虫剤散布で対応する。				
	ナシ	特記事項 1. 黒星病 伝染源となる落葉の除去・処分及び発芽期前後の防除を徹底する。				
	キウイフルーツ	特記事項 1. かいよう病 枝や幹から乳白色あるいは赤褐色の樹液が漏出する症状（下記写真参照）が無いか園内の見回りを行い、このような症状を示す発病樹の早期発見に努め、発見した場合には直ちに罹病部位を切除する。 また、感染防止のため、感染の有無に関わらず、開花前までの銅水和剤による定期防除を徹底する（ 詳細については防除のてびきP358~359を参照 ）。				
						

作物名	病害虫名	3月の予想発生量		病害虫防除のてびきの記載頁	予報対象の病害虫(抜粋)	
		平年比	前年比			
茶	カンザワハダニ	<u>やや多</u>	並	398~399	 カンザワハダニ	
	特記事項 1. カンザワハダニ 多発してからでは防除効果があがりにくいため、萌芽前までの防除を徹底する。また、生息部位である葉裏に薬液が十分にかかるよう丁寧に散布する。					
野	イチゴ(本圃)	ハダニ類	<u>多</u>	<u>多</u>	204~205	 ハダニ類
		うどんこ病	<u>やや多</u>	<u>やや多</u>	194~196	
		灰色かび病	並	<u>やや多</u>	197~198	
		アブラムシ類	並	並	210~211	
	特記事項 1. ハダニ類 注意報第8号(H28年1月28日)発表後、薬剤防除により発生数は減少したものの、多発生圃場では幼虫および卵(右写真参照)等の残存が認められ、今後、発生が再び増加する可能性がある。発生状況を随時確認するとともに、定期的な薬剤防除を実施する。					 幼虫と卵
菜	ナス	すすかび病	並	並	231~232	 ナスすすかび病
		灰色かび病	並	<u>やや多</u>	230~231	
		菌核病	<u>やや多</u>	<u>やや多</u>	233	
		アザミウマ類	やや少	並	152~157 242	
		コナジラミ類	やや少	並	149~151 240~241	
		ハモグリバエ類	やや少	並	158~159 243	
特記事項 1. すすかび病 多発生圃場が一部で発生している。健全葉への伝染を防ぐため、発病葉の除去を行い、換気を行うなど適切な湿度管理に努め、定期的な薬剤散布を行う。						

作物名	病虫害名	3月の予想発生量		病虫害防除のてびきの記載頁	予報対象の病虫害(抜粋)	
		平年比	前年比			
野	キュウリ	べと病	並	並	173~174	 キュウリ褐斑病
		うどんこ類	多	多	179~181	
		褐斑病	並	やや多	177	
		灰色かび病	やや多	やや多	175	
		アザミウマ類	並	並	188~189	
		コナジラミ類	並	並	187~188	
	特記事項 1. 褐斑病 前作の抑制栽培において、耐病性とされる品種での発生が一部で認められたことから、今作での発生に注意し初発生時から防除を行う。 2. アザミウマ類、コナジラミ類 スワルスキーカブリダニの放飼は、両害虫の密度を薬剤防除等により抑えた後に実施する。					
菜	トマト	葉かび病	並	並	221~222	 トマト灰色かび病
		灰色かび病	やや多	やや多	216~217	
		コナジラミ類	並	やや少	149~151 224~226	
		ハモグリバエ類	並	並	158~159 228	
	特記事項 1. 黄化葉巻病 (TYLCV) ・ 茎えそ病 (CSNV) 等 黄化葉巻病が一部圃場で発生している。発病株は早急に抜き取り、適切に処分するとともに、媒介虫であるコナジラミ類やアザミウマ類の初期防除を徹底する。					
タマネギ	ポトリチス葉枯症	やや多	やや多	279	 べと病	
	べと病	多	多	277~278		
		注意報第9号を参照				
	白色疫病	やや多	やや多	276~277		
ネギアザミウマ	やや多	多	285~286			
特記事項 1. べと病 二次伝染前(3月上旬頃)までに越冬罹病株の抜き取りの徹底と薬剤防除を実施する。 (病虫害発生予察注意報第9号を参照)						

作物名	病虫害名	3月の予想発生量		病虫害防除のてびきの記載頁	予報対象の病虫害(抜粋)	
		平年比	前年比			
花	キク	白さび病	並	やや多	375～376	 クロゲハナアザミウマによる食害
		アザミウマ類	並	少	152～157 382～383	
		アブラムシ類	並	並	379～380	
		ハダニ類	やや少	並	380～381	
		ハモグリバエ類	やや少	並	158～159 384～385	
特記事項 1. クロゲハナアザミウマ 本虫による被害は、主に葉裏に多く、かすり症状とともに、排泄物による黒い点が見られる。ハダニ類によるかすり症状と類似しているため、よく観察し薬剤の選定に注意する。本虫が寄生している葉裏に薬液がかかるよう発生初期から丁寧に散布する。 2. キクえそ病(TSWV)、茎えそ病(CSNV) 発病株は早急に抜き取る。また、媒介虫であるミカンキイロアザミウマの発生を抑えるため、 <u>発生初期からの防除</u> を徹底する。						

注1) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注2) 防除対策については「[佐賀県病虫害防除のてびき](#)」も参照してください。

II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

○平年（過去10年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。なお、少発生が予想される病虫害等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

○農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病虫害の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。

○発生現況および気象条件が来月の病虫害の発生に及ぼす影響については、（－）：少発生、（－～±）：やや少発生、（±）：並発生、（±～＋）：やや多発生、（＋）：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

○各病虫害を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「[県防除のてびき](#)」をご参照ください（1ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

○1ページ目：予報で対象とした病虫害を抜粋して掲載しています。
3ページ目以降：巡回調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

Ⅲ. 3月の気象条件

病害虫の発生に關与する3月の気象条件については、福岡管区気象台発表の3ヶ月予報（平成28年2月24日）を基に、「気温：平年より高い」、「降水量：平年よりやや多い」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に關与する気象条件

要素	3ヶ月予報における3月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に關与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	20	30 (9.9℃)	50	高い
降水量	20	40 (128.6mm)	40	やや多い

Ⅳ. 3月の予報

カンキツ

巡回調査（8圃場）
2月17～22日



巡回調査圃場の様子

1. かいよう病

1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生葉率：0%（平年0.4%、前年0%）

平年比：やや少く（-～±）

前年比：並く（±）

②昨年本病の多発圃場が確認されている
（±～+）

(2) 3月の気象予報

気温が高く、降水量がやや多く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

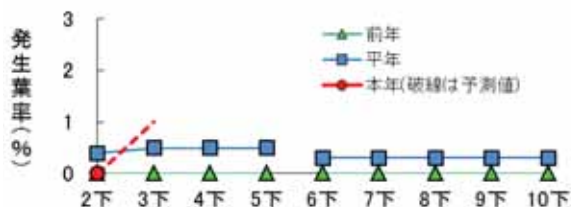


図1 カンキツかいよう病の発生推移
（注：5月下旬までは旧葉、6月以降は新葉を調査）

2. ミカンハダニ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生葉率：4.0%（平年3.4%、前年0.9%）

平年比：並く（±）

前年比：やや多く（±～+）

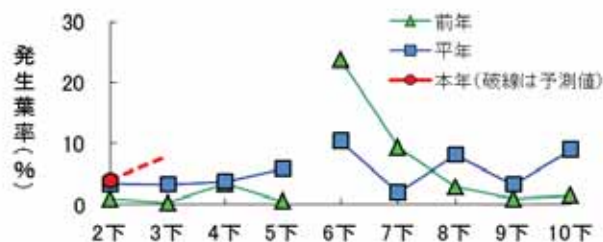


図1 ミカンハダニのカンキツでの発生推移
（注：5月下旬までは旧葉、6月以降は新葉を調査）

(2) 3月の気象予報

気温が高く、降水量がやや多く、やや多発生の条件〈±～+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 冬期に越冬虫対策で、マシン油乳剤を散布できなかった場合は、発芽前の3月上旬にマシン油乳剤を散布する。
- (2) 樹勢低下樹への対応については特記事項2を参照。

茶

巡回調査(7圃場)
2月17～19日



巡回調査圃場の様子

1. カンザワハダニ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い(前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況(図1参照)

発生株率：1.0%(平年6.2%、前年3.3%)

平年比：並〈±〉

前年比：並〈±〉

(2) 3月の気象予報

気温が高く、降水量がやや多く、やや多発生の条件〈±～+〉

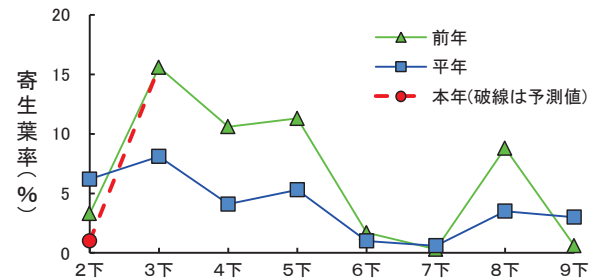


図1 カンザワハダニの茶での発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤は年一回の使用とする。
- (2) その他については特記事項を参照。

イチゴ(本圃)

巡回調査(12圃場)
調査日：2月19～23日



巡回調査圃場の様子

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い(前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査(図1参照)

発生株率：29.7%(平年14.8%、前年13.3%)

(発生圃場率：67%)

平年比：多〈+〉

前年比：多〈+〉

②病虫害防除員による調査(4圃場)

2圃場で発生確認、発生株率は2.3%〈-〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項を参照。

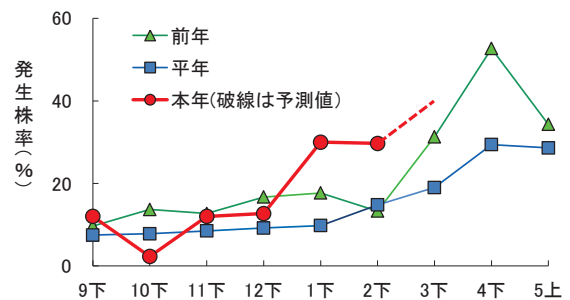


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査（図1参照）

発生株率：4.0%（平年4.0%、前年8.0%）

平年比：並（±）

前年比：少（-）

② 病害虫防除員による調査（6圃場）

2圃場で発生確認、発生株率は5.0%（±）

(2) 3月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 葉および果実での発生状況に合わせ、約2週間～1ヶ月間隔の薬剤防除と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせで防除する。

(2) 同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう計画的な防除を行う。

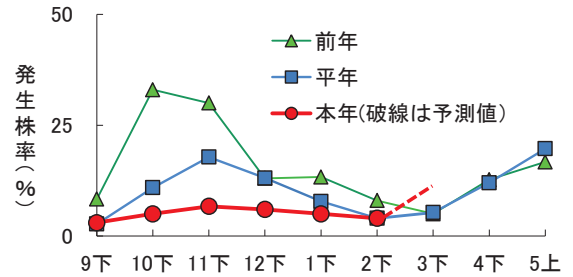


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

3. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査（図1参照）

発生果率：0%（平年0%、前年0%）

平年比：並（±）

前年比：並（±）

② 病害虫防除員による調査（4圃場）

発生なし、発生果率は0%（±）

(2) 3月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 曇雨天が続くと発生しやすい。発病果は伝染源となるため、見つけ次第除去し、圃場外で適切に処分する。

(2) 発生初期に薬剤防除を行う。

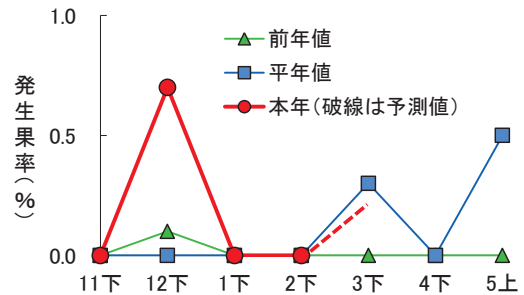


図1 イチゴ灰色かび病の発生推移

ナス（促成）

巡回調査（8圃場）

2月17～23日

1. すすかび病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）



巡回調査圃場の様子

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査 (図1参照)

発生株率：22.5% (平年21.8%、前年19.4%)

平年比：並(±)

前年比：並(±)

② 病害虫防除員による調査 (6圃場)

5圃場で発生確認、発生株率は14.2% (―～±)

(2) 3月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件 (±～+)

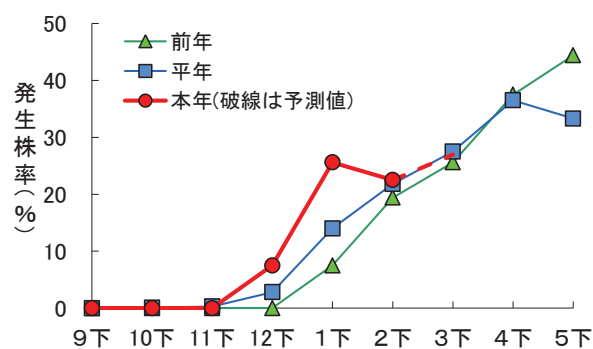


図1 ナスすすかび病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 中・下位葉の葉裏から発病しやすいので、注意して観察し、早期防除 (ダコニール1000とベルコートフロアブルを交互に一週間間隔で散布し、約一ヶ月散布) に努める。
- (2) 耐性菌が発生しやすいQoI剤及びSDHI剤、DMI剤は、薬剤感受性の低下を防ぐため、使用回数が増えないよう計画的な防除を行う。
- (3) その他については特記事項を参照。

2. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年並 (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査 (図1参照)

発生株率：0.6% (平年1.7%、前年0.6%)

平年比：やや少 (―～±)

前年比：並(±)

② 病害虫防除員による調査 (6圃場)

2圃場で発生確認、発生株率は3.3% (±～+)

(2) 3月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件 (±～+)

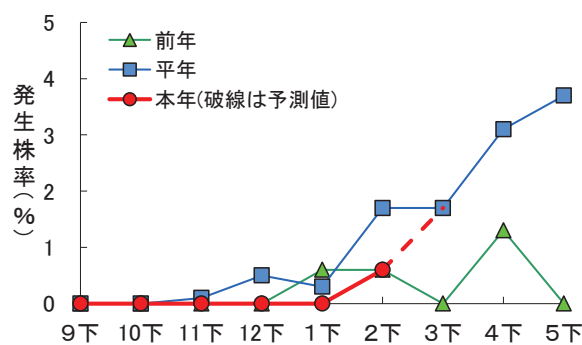


図1 ナス灰色かび病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう計画的な防除を行う。
- (2) 発病部位は早めに除去し、発生初期からの防除を徹底する。

3. 菌核病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査 (図1参照)

発生株率：0% (平年0.2%、前年0%)

平年比：並(±)

前年比：並(±)

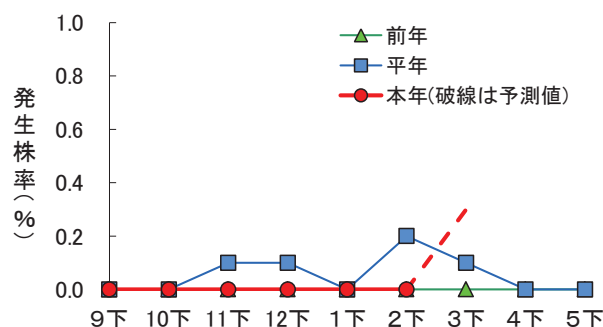


図1 ナス菌核病の発生推移

②病虫害防除員による調査（6圃場）

発生株率：0%（±）

(2)3月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～+）

3）防除上注意すべき事項

(1)発病部位は早めに除去し、発生初期からの防除を徹底する。

4. アザミウマ類

1）予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2）予報の根拠

(1)発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：0.6%（平年7.7%、前年0%）

平年比：やや少（-～±）

前年比：並（±）

②病虫害防除員による調査（6圃場）

1圃場で寄生確認、寄生株率は1.7%（-～±）

3）防除上注意すべき事項

(1)葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるように丁寧に散布する。

(2)薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう計画的な防除を行う。

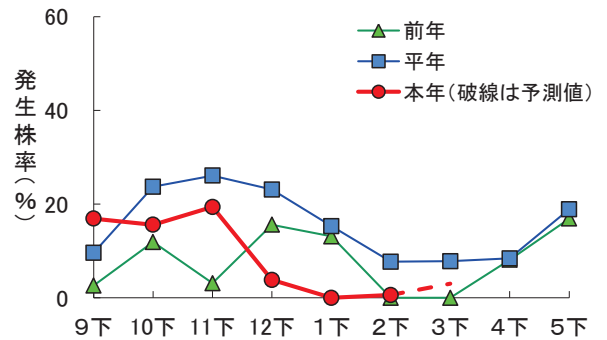


図1 アザミウマ類のナスでの発生推移

5. コナジラミ類

1）予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2）予報の根拠

(1)発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：3.8%（平年16.1%、前年2.5%）

平年比：やや少（-～±）

前年比：並（±）

②病虫害防除員による調査（6圃場）

寄生株率：0%（-）

3）防除上注意すべき事項

(1)葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるように丁寧に散布する。

(2)薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう計画的な防除を行う。

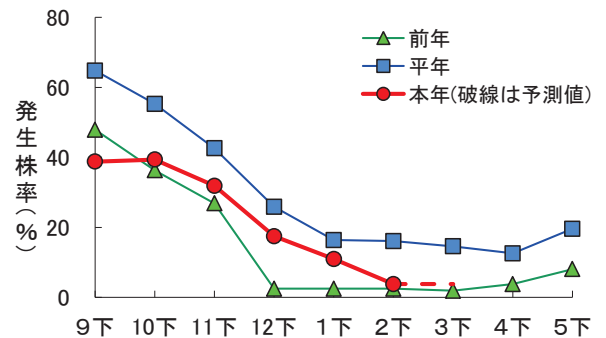


図1 コナジラミ類のナスでの発生推移

キュウリ（半促成）

巡回調査（7圃場）
調査日：2月19～23日

1. べと病

1）予報の内容

発生量：平年並（前年並）



巡回調査圃場の様子

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1参照)

発生株率：0% (平年1.5%、前年7.5%)

平年比：やや少 (ー～±)

前年比：少 (ー)

(2)3月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件 (±～+)

3) 防除上注意すべき事項

(1)圃場での発生に注意し初発生時から計画的な防除を行う。

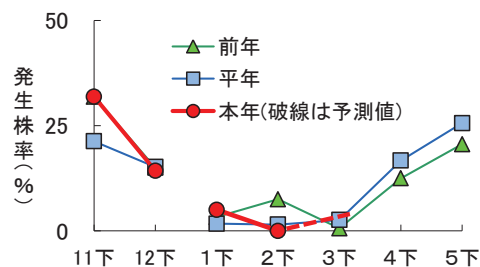


図1 キュウリべと病の発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1参照)

発生株率：15.0% (平年2.3%、前年1.3%)

平年比：多 (＋)

前年比：多 (＋)

(2)3月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件 (±～+)

3) 防除上注意すべき事項

(1)圃場での発生に注意し初発生時から計画的な防除を行う。

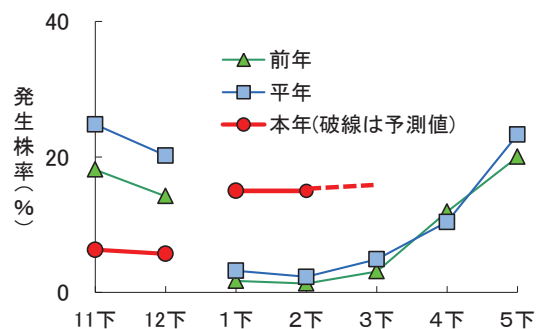


図1 キュウリうどんこ病の発生推移

3. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

巡回調査 (図1参照)

発生果率：0% (平年0%、前年0%)

平年比：並 (±)

前年比：並 (±)

(2)3月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件 (±～+)

3) 防除上注意すべき事項

(1)曇雨天が続くと発生しやすい。発病果は伝染源となるため、見つけ次第除去し、圃場外で適切に処分する。

(2)発生初期に薬剤防除を行う。

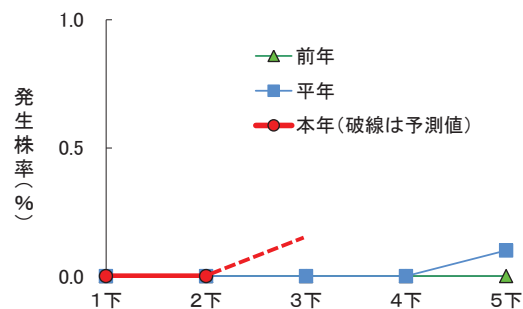


図1 キュウリ灰色かび病の発生推移

4. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査 (図1参照)

発生株率：2.9% (平年3.6%、前年16.9%)

平年比：並 (±)

前年比：少 (ー)

(3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生初期の薬剤防除を徹底する。

(2) 黄化えそ病の発生を認めた場合は、直ちに株を処分し本虫の防除を徹底する。

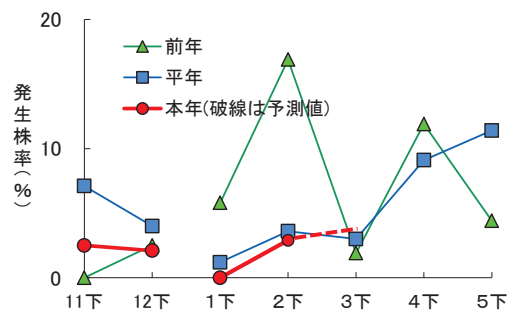


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

5. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査 (図1参照)

発生株率：0% (平年0.8%、前年2.5%)

平年比：やや少 (ー～±)

前年比：少 (ー)

(3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生初期の薬剤防除を徹底する。

(2) 退緑黄化病等の発生を認めた場合は、直ちに株を処分し本虫の防除を徹底する。

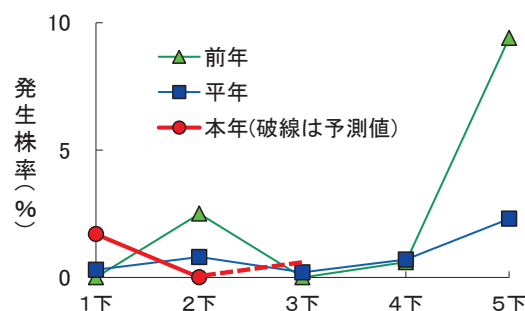


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移

トマト

巡回調査 (8圃場)

2月19～23日



巡回調査圃場の様子

1. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査 (図1参照)

発生株率：8.8% (平年8.3%、前年13.1%)

平年比：並 (±)

前年比：やや少 (ー～±)

② 病害虫防除員調査 (6圃場)

5圃場で発生確認、発生株率は12.5% (±～+)

(2) 3月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件 (±～+)

(3) 防除上注意すべき事項

(1) 発病果や発病葉は除去し、発生初期からの防除を徹底する。

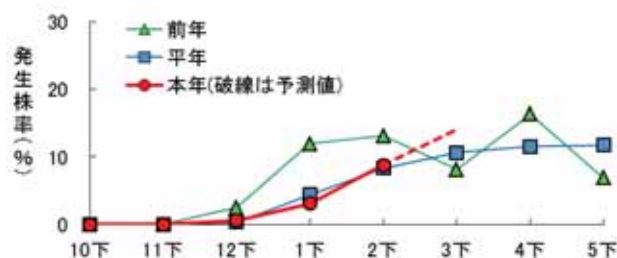


図1 トマト灰色かび病の発生推移

2. コナジラミ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年よりやや少ない）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 巡回調査（図1参照）
発生株率：3.8%（平年3.1%、前年2.5%）
平年比：並（±）
前年比：並（±）
 - ② 病害虫防除員調査（6圃場）
発生株率：0%（-～±）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項を参照。

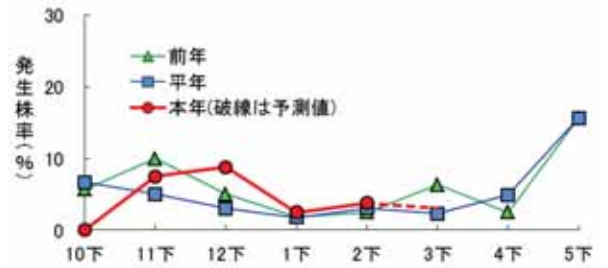


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

3. ハモグリバエ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況（図1参照）
 - ① 巡回調査
食害株率：0%（平年0.5%、前年0.6%）
平年比：並（±）
前年比：並（±）
 - ② 病害虫防除員調査（6圃場）
1圃場で発生確認、発生株率は1.7%（+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 幼虫寄生葉は除去し、施設外へ持ち出して処分する。
 - (2) 本虫の発生を認めたら、初期防除を徹底する。

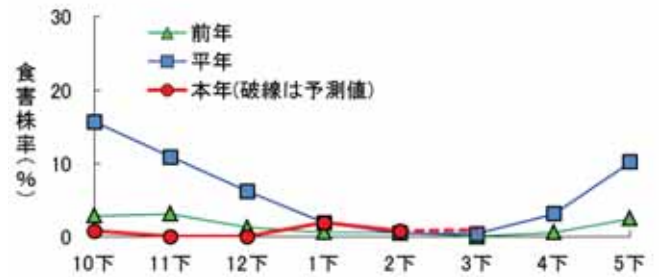


図1 ハモグリバエ類のトマトでの食害株率推移

タマネギ

巡回調査（16圃場）
2月22日



巡回調査圃場の様子

1. ベと病

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 巡回調査（図1参照）
発生株率：0.47%（平年0.02%、前年0.09%）
平年比：多（+） 前年比：多（+）

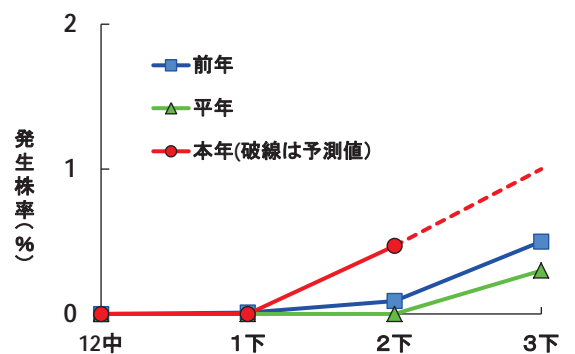


図1 タマネギベと病の発生推移

(2) 3月の気象予報
 気温が高く、降水量がやや多く、やや多発生の条件〈±～+〉

3) 防除上注意すべき事項
 (1) 特記事項を参照。

2. ボトリチス葉枯症

1) 予報の内容
 発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 巡回調査（図1参照）

発生株率：3.6%（平年5.5%、前年2.0%）
 平年比：並〈±〉 前年比：並〈±〉

(2) 3月の気象予報

気温が高く、降水量がやや多く、やや多発生の条件〈±～+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生初期の防除を徹底する。

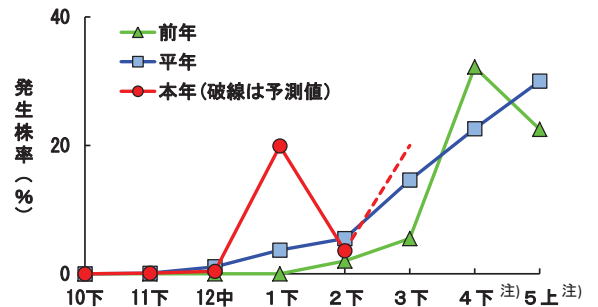


図1 タマネギボトリチス葉枯症の発生推移
 注) 4月下旬以降は、中・晩生品種を中心に調査

3. 白色疫病

1) 予報の内容
 発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 巡回調査（図1参照）

発生株率：0%（平年0.01%、前年0.01%）
 平年比：並〈±〉 前年比：並〈±〉

② 巡回調査圃場以外で発生を認めている〈±～+〉

(2) 3月の気象予報

気温が高く、降水量がやや多く、やや多発生の条件〈±～+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生初期の防除を徹底する。

(2) 通路を深く掘り高畦にするなど排水対策を徹底する。

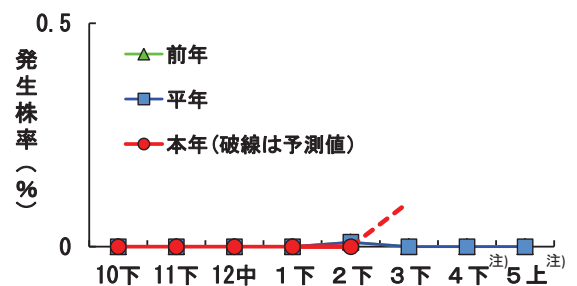
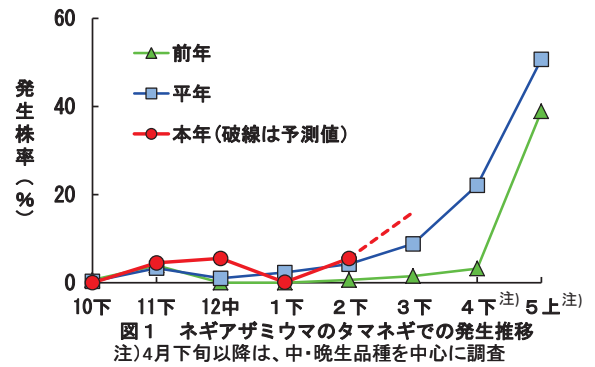


図1 タマネギ白色疫病の発生推移
 注) 4月下旬以降は、中・晩生品種を中心に調査

4. ネギアザミウマ

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 巡回調査（図1参照）
発生株率：5.5%（平年4.2%、前年0.6%）
平年比：並（±）
前年比：やや多（±～+）
 - (2) 3月の気象予報
気温が高く、多発生の条件（+）



- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 本虫は薬剤がかかりにくい葉の隙間に寄生しているので、かけむらがないように散布する。

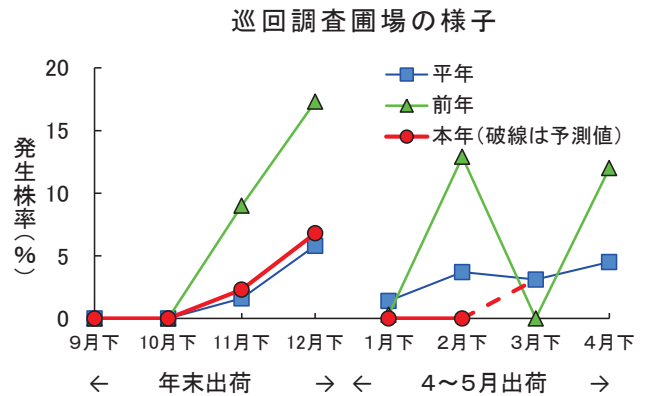
キク

巡回調査（8圃場）
2月17～23日



1. 白さび病

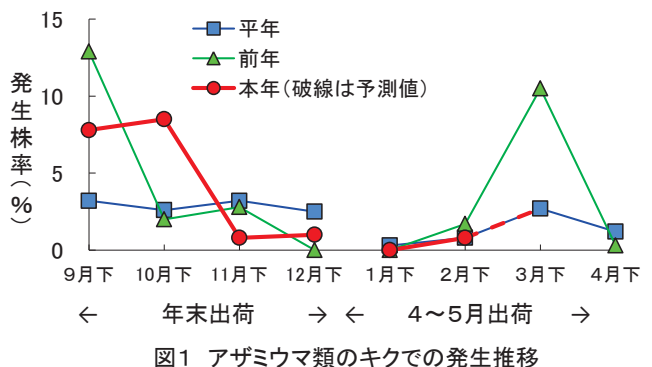
- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況（図1参照）
発生株率：0%（平年3.7%、前年12.9%）
平年比：やや少（-～±）
前年比：少（-）
 - (2) 3月の気象予報
降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～+）



- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 暖房機による送風や循環扇を活用するなどして、適切な湿度管理に努める。
 - (2) 発病後の防除は難しいため、薬剤の定期的な散布と硫黄粒剤のくん煙処理を組合わせて防除する。
 - (3) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるように散布する。

2. アザミウマ類（クロゲハナアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ）

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年より少ない）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況（図1参照）
発生株率：0.8%（平年0.8%、前年1.7%）
平年比：並（±）
前年比：やや少（-～±）



3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生初期からの防除を徹底する。
- (2) その他については特記事項参照。

3. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況（図1参照）

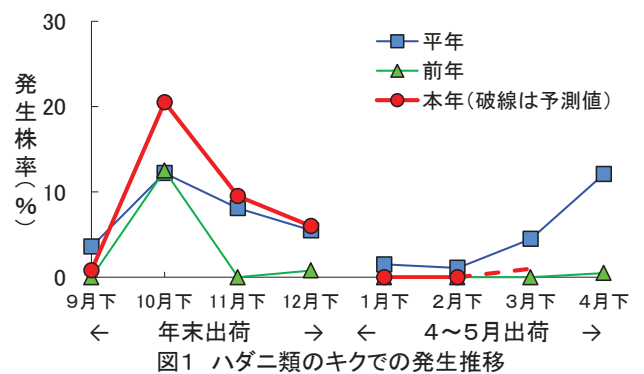
発生株率：0%（平年1.1%、前年0%）

平年比：やや少く（～±）

前年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本種は薬液のかかりにくい葉裏や下位葉に寄生していることが多いので、薬液が十分かかるよう散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。



全国・佐賀県で多発生している病害虫及び新たに発生した病害虫

主に1月25日～2月24日までに発表されたもの

警報・注意報（重要な病害虫の多発生が予想され、早めに防除する必要があるときに発表）

作物名	病害虫名	九州・沖縄・山口		その他の都道府県	
		注意報	警報	注意報	警報
イチゴ	ハダニ類	1/28 佐賀県	2/4 熊本県		
タマネギ	べと病	2/4 佐賀県			
トマト	灰色かび病			1/28 栃木県	
野菜類	ミナミキイロ アザミウマ	1/29 沖縄県			
にがうり	斑点病	1/29 沖縄県			

特殊報（新たな病害虫が発生した時などに発表される）

作物名		病害虫名	発表日及び発信元
野菜	トマト	葉かび病（レース2.9）	2/10 神奈川県
	メボウキ（バジル）	べと病（仮称）	1/29 沖縄県
果樹	クルミ	褐色腐敗病	1/29 愛媛県
		黒斑細菌病（仮称）	1/28 長野県

農薬の適正使用を徹底しましょう！

- ◎農薬を使用する際は、事前にラベルをよく確認しましょう。
 農薬の登録内容は変更されることがあります。
 使い慣れた農薬でも、ラベル等で登録内容を確認して使いましょう。